

患者支援センター

群馬大学医学部附属病院は、前身の医療福祉相談部と病診連携センターを統合し、2009年4月に患者支援センターを開設した。同病院と地域医療機関との連携拠点としての役割のほか、通院や入院治療を受ける患者や家族の医療上の不安や経済的問題などの相談を受けている。

同センターの主な業務は①地域連携②各種相談③入退院支援一の三つの柱で構成している。在籍する職員は医師2人、看護師長1人、看護師20人、薬剤師1人、ソーシャルワーカー9人、事務員11人の計44人で、療養や社会福祉に関わる相談から事務手続きに至るまで多職種で総合的なサポートに当たる。

地域医療連携を支援

①の業務は、地域のかかりつけ医から高度医療を必要とする患者の紹介を受けて同病院診療科の予約を代行している。



ン外来にも対応する。同病院で実施しているセカンドオピニオンの予約業務を行い、より良い治療を提供するための取り組みにも力を注ぐ。

相談に合わせた窓口

②の各種相談業務は多岐にわたる。対象は同病院の患者に限らず、県内外から広く受け入れている。患者やその家族から治療に関する質問や不安な気持ちを聞



同センターの窓口で患者(右)の相談を受ける看護師やソーシャルワーカー、事務職員ら

入退院支援の窓口も

患者支援センター内には③の業務を行う入退院センターを設置。看護師と事務職員が患者から情報を聞き取り、手術日程や入院期間などの説明を行う。手術予定のある人には薬剤師が内服している薬を確認する。入院先の病棟スタッフとも情報共有し、退院時には地域の在宅療養支援とも連携する。患者と家族が安心し

多職種で医療、福祉サポート

小和瀬桂子センター長は「一人でも多くの患者さんに必要な医療を届けるため、地域医療機関との連携に力を入れている」と話す。その他、セカンドオピニオ

「医療職や福祉職、事務職員と多職種で連携し、サポートする体制を取っている」と話す小和瀬センター長



いたり、退院後の療養先や在宅医療、介護、医療費などの社会福祉に関わる相談に対応する。

「がん相談支援センター」と「難病相談支援センター」は、県から同病院が運営を委託され設置している。治療や療養上の悩み、不安などを聞いて現状を整理したり、正しい情報を集める手伝いをしている。

昨年9月には厚生労働省が公募する事業に採択され、「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を新設した。予防と治療をはじめ、患者や家族への情報提供や相談支援、地域医療機関との連携、啓発活動などを通じて県民の健康寿命延伸を目指している。

て入院し治療を受け、退院後も地域での生活が継続できるよう支援している。

また、治療や入院にかかる医療費の制度説明や休業中に申請可能な傷病手当金などの社会保障制度に関する相談もソーシャルワーカーが受けている。「患者さんの生活環境や社会的背景は一人一人違う。患者さんそれぞれの生活課題に寄り添う対応や支援をしたい」とソーシャルワーカーの関上里子さんは語る。

患者に一番近い位置

前原恵美子看護師長・副センター長は「突然、がんや難病と診断されると、どうしたらいいかわからないという人は多い。つらい気持ちや不安を窓口で話すうちに落ち着いて、今後の治療や生活について考えられるようになる」と話す。関上さんは「治療と関係のない仕事や家族の事情は、医師に話にくいこともある。そういった相談先として対応している」と思いを込める。

大学病院は各診療科の独立性が高く縦割りのイメージがあるが、現在は横断的な役割を持つ部署もでき、チーム医療を重視する体制へと変化している。その中でも同センターは患者と診療科、地域医療施設、社会福祉などをつなぐ部署として大きな役割を担っている。小和瀬センター長は「院内で一番患者さんに近い立ち位置にいる。安心して最適な医療が受けられるよう、職員一丸となってサポートしていく」と力を込める。

月に1度開かれるミーティングは、それぞれの立場から各相談実績の報告や同センター運営について意見が交わされる



理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)
<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>